

思春期保健問題に関するPDM

プロジェクトの要約	指 標	入手手段
上位目標 ・子どもの自己教育力が高まり、生活が規則的、健康的になる	十代の人工妊娠中絶実施率・十代の性感染症罹患率 非行、怠学で補導される数	衛生統計年報 県警資料
プロジェクト目標 1 青少年の性の逸脱行動が減る 2 不登校の子どもが減る 3 青少年の飲酒・薬物・喫煙問題が減る	補導、保護される青少年の数 不登校、引きこもりの相談件数 思春期の子ども達の飲酒率・喫煙率	県警資料 関係機関の相談件数調 学校基本調査、県民栄養調査
成 果 1 家庭が安心できて、何でも話せる 2 地域が青少年の問題に関心を持つことができる 3 学校が子どもの問題行動に日常的に対応できる 4 専門機関と専門家の対応能力が強化される 5 青少年を取り巻く沖縄県の特異な環境が認識される	家が楽しいと思う子どもの割合 地域での学習会、講演会、研修会の開催回数 学校が楽しいと思う子どもの割合 専門機関の相談窓口の設置数 夜間に補導される子どもの数	学校基本調査 新聞、地域・離島課の自治会活動調 学校基本調査 関係機関の相談件数調 県警資料
活 動 1 性について話し合いができる家庭にする 1-1 親の愛情が確認できる 1-2 家庭の教育力、生活する力が向上する 1-3 親自身の態度、行動を律する 1-4 家庭の中で虐待をさせない 2 大人が子ども達の問題行動を見て見ぬふりをしない 2-1 大人が地域の子どもの問題行動を注意できる 2-2 地域の飲酒・喫煙環境を制御する 2-3 虐待に気づいたら積極的に通告する 2-4 地域の連帯意識を育てる 3 学校が子ども達の問題行動に日常的に対応できる体制をつくる 3-1 教師自身の教育力の充実に努める 3-2 学校全体の教育、相談体制を強化する 3-3 虐待予防の教育をする 4 専門家が子ども達の問題行動に的確に対応できる体制をつくる 4-1 専門機関を強化する 4-2 専門機関相互の連携を有効にする 4-3 専門機関の連携システムを再構築する 5 沖縄県の特異性を認識し青少年の深夜徘徊をなくす 5-1 夜型社会を変える 5-2 飲酒に寛容な社会を変える 5-3 高校中退者を減らす 5-4 健全育成の場を増やす	学校 児童相談所 市町村 保健所 精神保健福祉センター 福祉事務所 県警サポートセンター 医療機関(小児科、産婦人科、心療内科) NPO 太陽の家 その他 地域子ども会 自治会 婦人会等	